

平成30年

みえ高校生県議会 会議録

平成30年8月21日（火曜日）

〔午前11時40分開会〕

開 会



○三重県議会副議長（前野和美）

ただいまから「みえ高校生県議会」を開催いたします。私は三重県議会副議長で広聴広報会議の座長を務めております前野和美でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それではまず初めに、前田剛志三重県議会議長よりご挨拶を申し上げます。

議長あいさつ



○三重県議会議長（前田剛志）

どうも皆様、こんにちは。ご紹介をいただきました三重県議会で議長を務めております前田剛志と申します。どうぞよろしくお願いをいたします。

本日は「みえ高校生県議会」にご参加をいただきまして、まずもって感謝を申

し上げるところでございます。本当にどうもありがとうございます。本会議も今回で3回目を迎えさせていただきました。高校生の皆様方に県議会議員としての体験をしていただくことによりまして、議会にこれからも関心を持っていただければということとともに、日頃、高校生の皆様方がいろいろ感じているご意見やご質問を、この機会の中で高校生の皆様方に直接聞かせていただくことによりまして、議会での議論に反映をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。今回は、11校40名の方にご参加をいただいております。事前にいただいた内容等を拝見させていただきましたと、県政の重要課題ばかりでございまして、これまでも県議会で議論を重ねてきた項目ばかりでございます。高校生の皆様方の生の声を聞かせていただくことを楽しみにしておりますし、どうぞ肩の力を抜いていただいて遠慮なくご質問をいただければと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、先生の皆様方、傍聴席にお見えですかね。引率をいただいた先生方、あるいは関係者の皆様方に大変お忙しいところ、感謝を申し上げますとともに、本会議が成功裏に終えますことを心から祈念を申し上げまして主催者を代表しての挨拶と代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○三重県議会副議長（前野和美）

続きまして、鈴木英敬三重県知事よりご挨拶をいただきます。

知事あいさつ

○知事（鈴木英敬）

皆さんこんにちは。

ただいまご紹介いただきました、三重県知事の鈴木英敬です。今日は高校生の皆さん、高校生県議会のためにこの県議会に来ていただきまして心から感謝を申し上げます。



私は今、前田議長の横から上がってきましたけれども、普段は服部先生が座っているとところに座っています。それはさておきまして、今日はですね。皆さんが仲間と一緒にいろんな議論をし、準備をしてきた、その質問をぶつけてくれると思います。どうか日頃の思いを、そして仲間と準備をしてきた思いをですね、思いっきりぶつけていただいて、少々失敗しても構いません。自分の思う通りに、少々つまづいたりしても構いませんから、元気よく皆さんの思いをぶつけてください。そして今日は、議会の先生たちが受け止めていただきますけれども、私たち執行部の方でも皆さんがご質問いただいたことは把握をしておりますので、今後の県政に可能な限り反映をしていきたいと思っております。

まさに今、三重県では高校生たちが大活躍してくれています。みんなの仲間も大活躍してくれましたインターハイが昨日まで、三重県で開催されていきました。総合開会式では646人の高校生たちがいろんな演技をしてくれましたし、大会の補助員として約7千人の高校生たちが手伝ってくれました。それ以外にも県内67校の高校生たちが高校生実行委員会ということで、様々な取組をしてくれました。皆さんの中にもその中に入ってくれたメンバーもいるかと思っておりますけれども、是非ですね、そのときの思い、また仲間が達成したこと、そういうことを自信にこれからの皆さんの人生の歩みにつなげてほしいと思っておりますし、協力いただいたことに感謝を申し上げたいと思っております。

また先般の高校野球では、白山高校の

メンバーが本当にこれまで努力をして這い上がって、甲子園初出場を実現しました。このように少し辛いときがあったとしても、諦めずに前に向かって頑張っていくということは大変重要ですし、自分を信じて、仲間を信じて頑張るということは大事ですから、是非皆さんもそういう思いでこれから生活をしていってほしいと思います。ちなみに、今日の決勝戦では甲子園球場のオーロラビジョンに、三重高校のダンス部のメンバーのダンスが披露される予定になってます。今回の高校野球のダンスの中で1位になったということで、披露されますので、またみんなの仲間がそういうところでも頑張っているということでもあります。

最後になりますけれども、皆さん高校生で、それぞれ3年生の人もいれば、2年生の人もいれば、1年生の人もいるのかもしれないけれども、日本では18歳から選挙権が認められています。政治や行政というものが皆さんのもう目の前にきているということでもありますので、今日の高校生県議会のことを単に今日のイベントに終わらせるのではなく、皆さんの生活に密着する、皆さんの人生に関係する政治というものがこれからの皆さんの身近なところにきていますから、その思いで関心を持って取り組むきっかけにしてもらえれば、と思っております。

最後に先生方にも感謝を申し上げ私の挨拶とします。今日はご苦労様です。

参加者の紹介

○三重県議会副議長（前野和美）

ありがとうございました。

次に、本日参加いただきました高校生議員の皆さん、各常任委員会の委員長、環境生活部長および教育長代理の教育委員をご紹介させていただきます。議会事務局長から順番にご紹介しますので、名前が呼ばれましたらご起立願います。

〔事務局長から一人ずつ紹介〕

○三重県議会副議長（前野和美）

紹介は省略をいたしますが、主催者であります広聴広報会議委員も本日出席しております。なお、鈴木知事におかれましては公務により、ここまでで退席をされます。ありがとうございました。
暫時休憩をいたします。

〔休憩〕

各校の質問及び答弁

○三重県議会副議長（前野和美）

休憩前に引き続き会議を開きます。
それでは、ただいまから「みえ高校生県議会」の議長は暁高等学校、水谷友香議員。津田学園高等学校、伊藤璃音議員。暁高等学校、田中碧美議員の順に務めていただきますのでよろしくお願いします。それでは水谷議長、議長席にお着き願います。

○議長（水谷友香）



暁高等学校の水谷友香です。よろしくお願いします。（拍手）

ただいまから「みえ高校生県議会」を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

県政に対する質問を行います。

通告がありますので、順次、発言を許します。

桑名北高等学校

○議長（水谷友香）

桑名北高等学校、1番、山口弘記議員、2番、成實彩那議員、3番、市川未来議員、4番、中村弥生議員。



○桑名北高等学校（山口弘記、成實彩那、市川未来、中村弥生）

桑名北高等学校です。よろしくお願いします。

私たちは県内の学校における道徳教育について質問させていただきます。今、私たち高校生を取り巻く環境は、いじめやSNSの問題等様々な課題があります。

そのような課題を解決していくためには、道徳教育で身につける力は大変重要になっていくと思います。しかし、中学校までは道徳の時間がありますが、高校にはありません。本校では、道徳について学ぶ授業の一つとして「コミュニケーション授業」というものがあります。この授業では2年生での選択希望者を対象に、1年を通して保育所の園児との交流を実施しています。

【パネルA-1】このコミュニケーション授業は、自己肯定感、人間関係能力、感情をコントロールする力を養うという目的で12年前に始まりました。この授業の特徴としては大きく二つあります。一つ目は桑名市との共同事業として実施されていること、二つ目は1年を通して園児とパートナーを組み一対一の継続交流を行なっていることです。

私は昨年この授業を受講していました。

【パネルA-2】保育所での交流では、パートナーに泣かれてしまうことが何度かありました。なかなか手をつないでく

れなかったり、片付けをしてくれなかったり困る場面も何度もありました。見本を見せたり、時には待ったり繰り返し声をかけることで、だんだんできることが増えました。

この結果、パートナーがおんぶや抱っこ甘えてきたり、私たちの膝の上に特等席のように座りに来てくれたりすると、自分のことを認めてくれたと実感でき、とても嬉しくなりました。また、1年を通じた交流の最後にはお楽しみ会を開きました。【パネルA-3】これは近くの公民館で会場の準備から、園児に遊んでもらう遊具の作成、当日の進行までを全て生徒の手で行います。全ての年齢の子どもたちに楽しんでもらえる企画を自分たちで考え、計画を立て、役割分担をして前日まで制作をしました。当日は子どもたちがわくわくしながら楽しんでくれた様子を見て、私たちもとても嬉しくなり満足感でいっぱいでした。

こういった体験をもとに私たちは毎回振り返りを行いました。その日の反省点をもとに、次の課題を確認します。また、仲間の関わり方を参考にしたり、クラスで振り返りを共有したりすることによって新しい気づきが得られます。この結果、他者の気持ちを考える力や、人とのコミュニケーションをより円滑に進められる力が身につきました。また、将来、親になったときにも生かすことができる貴重な体験ができました。こうした授業は、高校での道徳教育につながると思います。

そこで質問です。県内では、このように高校での道徳教育につながる取組はどのようなものがあるのでしょうか。小中学校では、教科書を使った道徳教育の授業がありますが、高校では教科書としての道徳教育はありません。県として、高校生の道徳教育の取組に対して、どのようにご支援、ご指導をいただけるのか、ご回答いただければと思います。以上です。

○教育警察常任委員長（木津直樹）

教育警察常任委員長の木津でございます。桑名北高等学校の皆様におかれまし

ては、先ほどご紹介をいただきました「コミュニケーション授業」における自らの貴重な実体験をもとに「道徳教育」について興味を持たれ、ご質問をいただきました。ありがとうございます。



さて、県内の高等学校における「道徳教育」についてですが、議員ご指摘の通り、現在、小中学校では「道徳」または特別の教科である道徳を要として「道徳教育」が行われておりますが、高等学校については学習指導要領で「高等学校における道徳教育は、人間としての在り方、生き方に関する教育を学校の教育活動を全体を通じて行うこと」とされています。

本県の県立高等学校では、各学校が公民科やホームルーム活動などを中心に各教科、科目等の特質に応じて、どのように道徳教育を行うかについて、各教育活動の役割分担や工夫、留意すべき点など総合的に示した教育計画である道徳教育の全体計画を立てて取り組んでいます。具体的にご紹介いただいたような、乳幼児との触れ合いを通じて思いやりの心などを育む取組や、医師や助産婦の講演から命のかけがえのなさに気づく取組など、生徒一人ひとりが人間尊重の精神と命の尊さを敬う心を培い、生きることの素晴らしさの自覚を深めるとともに、より深く自己を見つめながら人間としての在り方、生き方の自覚を深めることにつながる取組を進めてまいります。

他にも警察と連携した規範意識を高める取組や、弁護士によるいじめ防止の出前授業など、各学校で様々な取組が行われています。また、県教育委員会では、学校訪問等の機会を通じて、これらのよ

うな「道德教育」に関わる効果的な取組について情報提供を行い、各学校における「道德教育」が一層充実したものとなるよう取り組んでいます。

本委員会としても、皆さんの心に届くような体験を通じて、自他の命を大切に
する心や思いやりの心、責任感、規範意識等、豊かな心が育まれる教育活動が行われるようしっかりと調査、審査を深めてまいりたいと考えております。以上、
ありがとうございました。

○桑名北高等学校

答弁、ありがとうございました。三重県の「道德教育」についての取組や学校ごとの取組がとてもよくわかりました。これからも桑名北高校の取組をどうぞよろしく願います。以上で質問を終わります。（拍手）

津田学園高等学校

○議長（水谷友香）

津田学園高等学校、5番、伊藤璃音議員、6番、佐藤さくら子議員、7番、西山晃弘議員、8番、野呂貫太議員。



○津田学園高等学校（伊藤璃音、佐藤さくら子、西山晃弘、野呂貫太）

津田学園高等学校です。よろしく願います。

三重県南部の人口減少対策に関して伺います。私たちはいま現在、全国的に少子高齢化で人口が減少している中で、三重県の人口減少について調べてみました。

三重県全体としてみると、2005年をピークに人口は減少傾向にあり、人口の増加率は全国よりも低くなっていました。さらに調べた結果、少し古いデータではありますが、平成17年10月1日現在で、増加数が多いのは鈴鹿市や、桑名市などの北勢部と、津市や松阪市などの中部でした。これらの地域が増えているのは、名古屋などの大都市圏に近く、また工業地帯にも近いからだと考えました。一方で、減少していたのは、志摩市や伊勢市、鳥羽市や尾鷲市などの南部だとわかりました。

そこで、どうして南部は減少数が多いのか調べてみましたが、私たち自身もまず南部についてあまりよく知らないことに気づきました。私たちが知っていたのは、伊勢神宮や熊野古道などの歴史的なもののみで、地域についても2016年に伊勢志摩サミットが行われたことくらいしか知りませんでした。これらを踏まえて、私たちは全校生徒を対象にアンケートをとりました。

【パネルB-1】アンケートの内容説明とそれに対する考察をさせていただきます。

【パネルB-2】質問事項1では、「三重県の南部に行ったことがありますか」という質問でしたが「はい」が多い結果になりました。

【パネルB-3】2では、「1で「はい」と答えた人はどこに行ったことがありますか」という質問でしたが、このような結果になりました。

【パネルB-4】3では、「三重県南部で行ってみたいところはありますか」という質問でしたが「いいえ」の方が多い結果になりました。

【パネルB-5】4では、「3で「はい」と答えた人はどこに行ってみたいと思いますか」という質問に対してこのような結果になりました。

【パネルB-6】5では、「三重県南部について魅力的だと感じますか」という質問でしたが「はい」の方が多い結果になりました。

【パネルB-7】6では、「5で「はい」と答えた人はどのような点が魅力的であるか」という質問に対してこのような結果になりました。

【パネルB-8】7では、「5で「いいえ」と答えた人はその理由を説明してください」というものでしたがこのような結果になりました。

【パネルB-9～11】最後に質問事項8では、「三重県南部に人をひきつけるためにどんな対策をとるべきかアイデアを教えてください」というものでしたが、「イベントをたくさん開催する」や「交通の便を良くする」や「遊べる場所や観光場所をもっとつくる」や「有名人を観光大使にする」などの意見が出ました。これらのアンケートを踏まえて、考察をしたいと思います。

このアンケート結果から、私たち北勢部の高校生は三重県南部に対して、魅力的だと感じているにも関わらず、行ってみたい人は少ないことがわかりました。その理由は交通の便が悪いことに加えて、

若者向けの場所がない田舎であるというイメージが大きいのではないのでしょうか。

そこで、三重県で行われている人口減少対策について調べてみたところ、平成27年度から、県内外の人に向けて「ええとこやんか三重」というホームページを開設しており、移住や仕事探しなどのサポートを行っているということを知りました。

また、特に人口減少の著しい南部地域において、市町と連携した高校生向けの地域人材育成の取組として「地域づくりイキイキフォーラムinみえ」を開催して、地域の活性化に向けた取組や課題を共有し、人々と交流する機会を設けていることも知りました。また、南部への移住の促進は自然をアピールポイントとし、漁業や林業、観光業において主に就職支援を行っているように感じました。

全校生徒へのアンケートの結果からもわかるように、現在これらの政策の成果は、正直私たちにとってあまり実感することはできません。そこで、いま現在の県の取組の成果と、さらに今後の展望について聞かせていただきたいと思います。

○総務地域連携常任委員長（服部富男）



総務地域連携常任委員会、委員長の服部富男でございます。津田学園高等学校の伊藤議員、佐藤議員、西山議員、野呂議員におかれましても、今回ご質問いただきましたことを心から感謝を申し上げます。特に事前に全校生徒を対象にしたアンケートをとっていただくなど、しっかりとご準備をいただきましたことも、重ねて感謝を申し上げますところでござい

ます。

三重県の人口減少については、県北中部に比べ、県南部の人口減少率が高い傾向にあり、これは大きく二つのことが関係していると考えられます。一つ目は、都市部から離れており、人が集まりにくいという地理的な要因。二つ目は、大学の高等教育機関がなく、また就職する場所も少ないなど進学や就職の際、多くの方が他の地域に出て行ってしまうということでもあります。

そこで、三重県では県南部に「住み続けたいくなる取組」、「戻りたいくなる取組」、「暮らしたいくなる取組」を三つの柱として南部地域の活性化に向けた様々な取組を展開しているところであります。このうち移住の促進を目的とした暮らしたいくなる取組では県および市、町の相談窓口等で把握した県南部地域への移住者数が平成27年度の68人から平成29年度は170人になるなど、徐々に成果が出始めているところであります。

しかし、今後も継続的に移住の促進を図るには、さらなる取組を行う必要があります。では、どのような取組が必要なのか。実はそのヒントが皆さん、全校生徒へのアンケート調査結果に隠されています。それは、南部地域を魅力的だと感じている人が約6割もいる一方、南部地域に行ってみたい人は約3割しかいないという調査結果がありましたが、魅力が伝わったからといって、その人たちが実際に地域を訪れるという行動を起こすわけではないということでもあります。

そこで今までのようにインターネット等による一方的な情報発信だけではなく、実際に県南部を訪れてもらい、そこで暮らす人や、食事、文化と直接触れ合うという実体験を通して、南部地域の魅力を体験してもらうことによって移住につなげる取組も進めているところであります。

本委員会においても、去る8月8日に鳥羽市と志摩市を訪れ、市が実施している都市部の人を鳥羽、志摩に呼び込むための様々な取組について調査してきたところであります。

日本全体で人口減少が進むと推測されている中、県南部の人口減少を食い止めることは簡単なことではありません。先ほどご説明した「暮らしたいくなる取組」を進めるほか、集客、交流等によって産業振興を図る、「住み続けたいくなる取組」、高校生の郷土への愛着を高めたり、南部地域の仕事、暮らしを知るインターンシップを促進するなど、「戻りたいくなる取組」を同時に進めることが重要だと考えています。今回皆さんからいろんなアイデアをご提案いただきましたが、引き続き南部地域に関心を持ち、課題解決に向けご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○津田学園高等学校

答弁ありがとうございました。今後、三重県が今以上に栄えていくようにしていただきたいと思います。以上で質問終わります。（拍手）

四日市南高等学校

○議長（水谷友香）

四日市南高等学校、9番、川戸将矢議員、10番、森亮議員、11番、赤嶺直弥議員。



○四日市南高等学校（川戸将矢、森亮、赤嶺直弥）

四日市南高校です。よろしくお願ひします。観光資源の活用についてお伺ひします。【パネルC-1】現在、三重県では総人口の減少、少子高齢化、【パネルC-2～3】それに伴って生産年齢人口が減少していることが問題になっています。【パネルC-4】しかしその一方、三重県を訪れる観光客の数は増加しています。そこで、私たちはこの観光客の増加を生かした経済の活性化をしていけばよいのではないかと考えました。

三重県には、伊勢神宮、熊野古道、鈴鹿サーキットなどジャンルを問わずに様々な観光名所があります。特に、伊勢の地域は式年遷宮や伊勢志摩サミットで多くの観光客が訪れた実績があり、全国的にも知名度が高くなっています。しかし、このグラフを見てもらうとわかるのですが、イベントのある年は飛躍的に観光客数が増加しているのですが、その前年と次年においての増加は微々たるものです。大きなイベントごとに頼ることなく、持続的に増加させていくには問題点があると考えました。

まず一つ目に広報、宣伝活動の不足です。その一例に四日市市立博物館を一例に挙げたいと思います。そこは世界でもっとも多く星を投影できるプラネタリウムがあり、それが世界ギネス記録に認

定されています。しかし、そのことは現在、広報、宣伝活動に生かされていないために、それについて知っている人がほとんどいないのが現実です。これは広報、宣伝活動が十分になされていないことの一例だと考えます。本来生かされるべき魅力が隠されたままになってしまっているのはそのものに対して大きな損失であり、県内にもこれと同じような例が他にもあるのではないのでしょうか。

二つ目に交通の利便性です。三重県の北勢、中勢地域の観光客は比較的多いのですが、南勢地域は少なくなっています。

【パネルC-5】これは電車などの公共交通機関の整備が遅れていて、不便だからではないのでしょうか。例えば、他県から三重県にアクセスする場合、多くの乗り換え、少ないバスの本数、長い所要時間やそれに伴う高い交通費など様々な問題があります。これは南勢地域だけでなく、県全体にもいえることです。交通網の整備は、観光という対外的な面だけでなく、県民の生活にも直結する問題でもあるので、この整備は長期的にみても有用であると考えます。

今回、主な問題点として、広報、宣伝活動の不足、交通の利便性という二つの項目を挙げましたが、その他にも多くの問題点があると思います。このような問題点について、どの程度把握なされていて、それに対してどのような対策を現在とっているのか、さらにこの先どのようにとっていくか、それについてお聞かせください。

○戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）



四日市南高等学校卒業生の芳野正英です。後輩の皆さん、しっかりと取り組まれた質問をありがとうございます。先輩として答弁をさせていただくことに誇りを持って答弁をさせていただきます。

いろいろ、ご指摘をいただきました問題点、確かに、ご指摘いただいたように三重県は今まで大きなイベントごとに観光客が増えまして、その後がくっと落ち込むというのが現実的なことでありました。それではダメだということで、前回の式年遷宮以降ですね、確かに伊勢志摩サミットもありましたし、またあと去年は菓子博、伊勢菓子博というのがありましたけども、こういうイベントもうっていくと同時にですね、効果的な、継続的な観光客の誘客というのを図っていこうと思っています。

それは、後ほど答弁をさせていただくとして、まず一つ目の広報、宣伝活動の不足の部分ですけども、その一例、四日市市立博物館を挙げていただきましたけども、三重県は今の公式の観光サイトの「観光みえ」というのをサイトで作っていますけども、ここに実は四日市のプラネタリウムっていうのは連携はされていませんので、ご指摘のように宣伝の方法ですとか、ギネスにも載っているプラネタリウムの宣伝ですね、こういうことをしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

それから二つ目の交通の利便性に関してもですね、地域の鉄道や幹線バスの路線維持を図るためには、国や関係市町と連携したまずは財政支援を行うとともに、陸上交通だけじゃなくてセントレアからの船ですとか、こういう海上交通も含めた幅広い公共交通機関の利用促進を検討して取り組んでいます。その利便性を高めるためには、目的地までの路線や乗り継ぎの検索をよりわかりやすくするための「三重県内の公共交通ネットワーク見える化」などの取組を市、町や交通事業者と連携して進めています。

また、今後はですね、リニア中央新幹線が東京一名古屋間で2027年に先行開業

されます。そして2037年には、予定ですが大阪まで延びて、この三重県にもリニアの駅が開設される予定になっていますので、そうしたこともですね、しっかりと調査、研究を行って、観光ですとか、産業をはじめとする様々な分野で公共交通の波及効果を探っていきたいと思っています。

観光に関してですね、いくつか三重県が取り組んでいること、特に若い高校生からの質問ですので、たくさんやってるんですね観光政策。特にネット、ウェブサイトを使った取組を中心に説明をさせていただこうと思っています。まずは、先ほども申し上げましたけども、三重県観光連盟と連携して公式サイト「観光みえ」というのを活用して、戦略的なウェブプロモーションの取組を進めています。

特に、伊勢志摩サミットで世界から注目を集めた食、三重の食材ですね、これをテーマにしたウェブサイトの「みえ食旅物語」というサイトがあります。またよかったらメモして帰ったら見ていただければと思いますけども、三重県の食をレポートしてもらうような、これをサイトに載せてくようなことをしていますし、去年は「#（ハッシュタグ）みえ食旅SNS写真投稿キャンペーン」というのをやりまして、要は皆さんから三重の美味しい、そして面白い食材を挙げてもらって、その中から優秀賞には景品を出すというようなこともさせていただきました。

また、今、インスタグラムですとか、そういう写真投稿サイトが非常に若者ですとか、外国人中心に取り組まれていますので、そのインスタグラムでも「#visitmie」ですね。これでまた検索してもらいますと「#visitmie」っていうので検索してもらおうと、海外から来た方、国内から来た方もですね、三重県の観光の風景を撮ってもらって、そこにハッシュタグを付けてもらうという取組もしています。今、インスタグラムでも今日の時点で8,485件の「visitmie」って書いた投稿が出てますので、また、それも見てもらえればと思いますし、特に、その

「visitmie」の中でも台湾とタイランド、タイですね、特に「visitmie_tw」とか「visitmie_th」といって台湾から来るお客さんとか、タイから来るお客さんは特に自分たちでそういうふうに自国の人たちが上げてもらってまして、台湾からの投稿は今264件、タイランドから252件、三重県に来てもらって風景を撮って、インスタグラムに上げてもらう。こういう活動をしていますので、こういった欧米からの観光客とかアジアの富裕層向けの観光客に向けて、三重県に来てもらって、三重県の姿を捉えてもらうような、こんな取組をしています。他にも若い高校生の発想で、いろんな提案を、またいただければと思います。ご質問ありがとうございました。

○四日市南高等学校

答弁、ありがとうございました。一つご質問させていただきます。

今後、こういった観光方面に関して掲げていく目標のようなものがあれば教えていただければ幸いです。

○戦略企画雇用経済常任委員長（芳野正英）



はい。ありがとうございます。

三重県としても定点的にずっと観光入込客数とか、そういうのは数字であげてますので、今、確か420万人の、去年は観光客の入込数がありましたけども、こういう統計をとってますので、それはずっと統計をとりながら、数年後の目標掲げてやっていますので、よろしく願います。また見ておいてください。

○四日市南高等学校

ありがとうございました。三重県の観光資源を最大限に利用して、県の運営に起用していただければと思います。ありがとうございました。（拍手）

○議長（水谷友香）

暫時休憩いたします。

〔休憩〕

○議長（伊藤璃音）



津田学園高等学校の伊藤璃音です。よろしく願います。（拍手）

休憩前に引き続き会議を開きます。

県政に対する質問を継続いたします。

暁 高 等 学 校

○議長（伊藤璃音）

暁高等学校、12番、田中公士議員、13番、村山瑛大議員、14番、水谷友香議員、15番、田中碧美議員。



○暁高等学校（田中公士、村山瑛大、水谷友香、田中碧美）

暁高等学校です。よろしくお願ひします。

私たちが通っている暁中学・高等学校では、毎年、中学1年生に対して防災教室が実施され、また2011年の東日本大震災の後に「復興支援委員会」というボランティア組織が立ち上げられ、持続的に宮城県東松島市等を訪問し、ボランティア活動を実施しています。このような環境で学校生活を過ごしている暁中学校・高等学校の生徒を代表して、高校生の防災意識向上に向けて、一つの質問と二つの提案をさせていただきます。

現在、三重県では、起震車による地震体験や防災意識向上についての講演会、防災啓発車の運用等、県民の防災意識の向上に向けた取組だけでなく、生命や健康に直結する職業に従事されている方々に対する専門防災研修の開催も実施されています。実際、私たちの学校でも先に述べたように、起震車による地震の疑似体験をしたり、防災に関する授業が行われています。

また、私たちにとっては、学校のある四日市市のコンビナートにおいて、東日本大震災時の千葉コンビナートで起きた火災のような事態を避けるためのセミナーの実施は、過去の大災害を身近な地域に置き換えて考えることができるため、

防災に対しての意識を高める大きなきっかけになっています。

さて、災害といっても様々な種類に分類されますが、特に県民の中で関心が高いのは「地震」についてだと思います。6月18日に起きた大阪北部を震源とする地震が起きた際も、携帯電話からなる緊急地震速報などで、学校は騒然となり、近々起きると言われている南海トラフ地震への心配はさらに深まりました。先日私たちが暁中学校・高等学校の生徒、約800名を対象とした「防災意識に関するアンケート」では次のようになりました。

【パネルD-1～2】現在行っている防災対策に関するアンケートの結果1から4番を見ると、災害に対する関心は高いという結果が出ましたが、【パネルD-3】災害時に具体的な行動を取ることができる自信があるかというアンケートに対しては、大多数の人が実際には取ることができない、もしくは自信がないと答えました。つまり、防災意識は高いものの、防災訓練などでは、どこか他人事のような、身近でない気持ちもあり、身になっていない体験も多いのではないかと考えました。

ここで一つの質問です。このような現状を踏まえて、高校生の防災意識向上のために今後新しく取り組まれる施策についてお聞かせください。

また、私たちからはこの件について提案をさせていただきます。【パネルD-4】一つ目の提案は、アンケートから地域の防災訓練に参加した経験のある生徒が少なかったことや、主体的に防災訓練に参加した生徒の数が少なかったことから、地域の高校生の主体となった「防災キャラバン隊」のようなものを組織、各学校などで啓発運動や訓練の講習会などを実施してみてもいかがでしょうか。同じ高校生が教える、伝える側の立場に立つことで学ぶことも増えると思いますし、また受け取る側もより身近に感じることもできるのではないかと考えました。

二つ目の提案はSNSの有効活用についてです。【パネルD-5】私たちが実

施したアンケートにおいてSNSで防災情報を得ることがあると答えた生徒の割合は高いものとなりました。しかし、現在三重県において実施しているTwitterやLINEを利用した「防災みえ」の情報提供サービスにおいて、Twitterのフォロワーは6月30日現在1,226人、LINEの友達登録数も5,002人と、総務省東海総合通信局が出している2017年12月現在の三重県の携帯電話契約者数1,824,367人という数から考えるとまだまだ県民の間に浸透しているとは言えないのではないかと思います。これに対しては、県内の飲食店などとタイアップを行い、LINEの友達登録やTwitterのフォロワーになることで割引サービスや優待サービスを受けることができる、といったキャンペーンを防災の日などに実施してみてもいかがでしょうか。行政だけでなく、企業も含めた県民全員の防災意識向上につながると思います。また、現在発信されている内容は、注意報、警報の発表といった単調なものになっています。防災みえのホームページにあるような防災豆知識やクイズなど、我々の関心を高めるような内容も発信してみてもいかがでしょうか。

以上で質問と提案を終了させていただきます。

○防災県土整備企業常任委員長（小島智子）



防災県土整備企業常任委員会、委員長を務めています、小島智子と申します。暁高等学校の皆さん、ご質問いただきありがとうございます。ご答弁をさせていただきますと思います。事前アンケ

ートを中高生にとって、ということで、しっかり準備をさせていただきました。そのことについてもお礼を申し上げたいと思います。

アンケート結果を見せていただくと防災意識は高いものの、災害時に自分ごとのように行動してよいかわからないという割合が多いということですが、6月の大阪北部を震源とする地震、西日本での平成30年7月豪雨による大規模災害など、日本各地で災害が発生していて三重県民の一人ひとりが高い防災意識を持ち、災害時に自分自身が何をするかという意識を持つことが大変重要であると考えています。特に高校あるいは一部の小中学校においては、それぞれが住んでいる地域、そして通学路が違いますので、一人ひとりが、私自身の意識を持つことがより必要だろうと思います。

現在、三重県では高校生防災ノートの配布や学校での体験型防災学習、地域と連携した避難訓練を実施する際に、県職員を派遣したり、学校で防災学習をしていただいていると思いますけれども、それを推進する先生方「学校防災リーダー」と言っていますけれども、その方々を対象にした研修を行っているところです。そしてその先生が中心になってそれぞれの学校で防災活動を進めていただいています。

また、暁高校で実施されている東日本大震災での被災地でのボランティア活動と同様の同じような活動を「学校防災ボランティア事業」として、平成28年度から実施しています。この事業は中高生が自分の命を守り抜き、支援者の視点で、災害発生時に地域で自分から行動できる防災人材になってもらう。そのことを目的として行っています。

昨年度までは公立の中学校、高校生を対象にしたものだったんですけれども、今年度から募集対象を国立、私立の中学校、高校へと広げさせていただいて募集をさせていただいたところ、暁高校の田中さんも参加されたと伺っていますけれども、37人県内全域から、宮城県、福島県を訪問していただきました。そして暁

高校においては、報告をしていただいたというふうに聞いていますけれども、それぞれ参加された皆さんが、それぞれの学校でご報告をいただくということになっています。

「今後、新しく取り組む事業はありますか」というご質問でしたけれども、今のところ「このことを新しく進めます」という予定はありません。けれども、今行っているいろんな事業を拡大する、あるいは充実するという方向でしばらくは取り組んで行きたいと考えています。今年度行っていただいて、こういうことに問題点がある、こうすればもっと良くなるということについては、ぜひご意見を上げていただきたいと思います。

また、別のアンケートの項目では地域の防災訓練に参加した経験のある生徒が少ないという結果が出ましたけれども、県内には地域と連携した防災活動を行っている高校があります。例えば、四日市農芸高校という高校がありますが、農芸ということを生かし、授業で収穫したお米を「備蓄米」というふうにして保存をし、その備蓄米で炊き出し訓練を行う。三角巾包帯法の訓練では生徒が実演を行うなど、高校の専門性を生かしながら取り組んでいただいているところがあります。こういった事例を参考にぜひ暁高校さんにおかれましても、自分たちが中心になりながらどんな防災行動ができるかということを生徒の皆さんで考え、地域と連携した防災活動をぜひ実践していただきたいと思いますと思うところです。

先ほど皆さんからご提案いただきました同じ高校生から伝える、そして教えるということ。このことについては11月に高校生フォーラムが行われます。年が変わって2月には中高生防災サミットというものも行われます。経験のある皆さん、ない皆さん問わず多くの参加を得て、それぞれが学び合う場にしていただければと思うところです。よろしくお願ひします。

SNSの活用です。登録者数が少ないということは当委員会でも十分認識をし

ているところです。これからどんな手を使って登録者数を増やしていったらよいかということは一生懸命やらせていただきたいと思います。皆さんはSNSが得意です。その年代ですのでどうか県民の皆さんに自ら広めるということも力をお借りしたいと思います。

最後です。今回の西日本豪雨で岡山県総社市で高校生が中心になって約50人が夕食の炊き出しをする、あるいはある一人の高校生の呼びかけによって1,700人以上の生徒が実際にボランティアに携わるといったことが起きています。若い皆さんの力に大変期待をさせていただきたいと思ひますとともに、皆さんにお教ひいただいた、この提案につきましても今後委員会の中でしっかりと反映できるように協議してまいりたいと思ひます。以上で答弁を終わります。ありがとうございました。

○暁高等学校

答弁ありがとうございました。三重県の若年層の防災意識向上に向けた県の取組をここにいる全員が深く理解できたと思ひます。さて、ここ数ヶ月を振り返ってみても、地震だけでなく西日本豪雨や未だ類を見ない進路をとる台風などにより大雨や土砂災害に対する危険意識は高まるのはもちろんのこと、7月から続く命の危険も考えられる異常なまでの暑さに伴い、公立小学校、中学校にクーラーを設置するか否かに到るまで、対応すべき問題は、まだまだたくさんあると思ひます。これからも県がどのような対策を生み出すか期待して僕たちの質問を終了させていただきます。（拍手）